

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 26 年度第 10 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	平成 27 年 2 月 19 日 (木) 午後 6 時から午後 8 時まで		
開催場所	小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室		
出席者	委員	<出席者：12 名> 大江会長・渡辺副会長・加藤委員・降旗委員・波多野委員・清水委員・多田岳人委員・勝又委員・北澤委員・鶴田委員・豊田委員・岡山委員 <欠席者：2 名>	
	事務局	小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・秋元ごみ対策課長補佐・井上・八方・佐藤・穂山・吉田	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
会議次第	1 開 会 第 9 回審議会会議録の確認について 2 議 題 一般廃棄物処理基本計画の策定について (審議) 3 その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他	次回開催予定 平成 27 年 3 月 19 日 (木) 小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室		

審議過程（主な発言等）

大江会長	第10回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。事務局より配布資料の確認をお願いする。
秋元ごみ対策課長補佐	(配布資料確認)
大江会長	それでは第9回の会議録について意見・修正があれば発言をして頂きたい。
秋元ごみ対策課長補佐	第9回審議会議事録において、7ページの渡辺副会長の発言中、「医療系の粗大ごみは」とあるが、「事業系」であるご指摘を頂いているので、修正をお願いしたい。
大江会長	会議録で、他に訂正や意見はないか。
渡辺副会長	6ページのリサイクルバザーのところ、毎月第3木曜日とあるが、どこで誰がやっているのかという情報があつた方が良いのではないか。
大江会長	多田岳人委員の発言のところだが、いかがか。
多田岳人委員	毎月第3木曜日に上之原会館で小金井市消費者団体連絡協議会が行っている。
大江会長	指摘して頂いた内容を修正した上で、他に意見・修正がなければ公開手続きを執るが宜しいか。
委員各位	(異議なし)
大江会長	では、議題に入る。一般廃棄物処理基本計画についてパブリックコメントの結果が出ており、事務局の方でどのように対応したか説明頂き、審議したいと思う。
小野ごみ対策課長	(一般廃棄物処理基本計画(案)に対する意見及び検討結果について資料説明)
大江委員	パブリックコメント81件とそれに対する行政側の対応についてご説明頂いた。特に反映されているところは網掛け、白抜きのところは、右側が検討結果の内容である。お気付きの点があれば意見を出して頂きたい。
加藤委員	何人からの意見だったのか。
秋元ごみ対策課長補佐	10名から意見を頂いている。
加藤委員	今回のパブリックコメントは、前回に比べて、市民がよく読んで、色々な提案、意見を述べている。やはり大変関心が深いのだろうと思う。「求められる」という言葉については、「取り組まなければならない、支援を強化しなければならない、充実に取

審議過程（主な発言等）

	<p>り組まなければならない」等に変わったという点では、市の積極的、主体的な姿勢も見られると思う。ただ、9ページで燃やさないごみは「年度間の増減が見られるものの増加傾向になった」とあるが、一貫して増えているのではないかと。粗大ごみもずっと増え続けている。一方、自家搬入のごみは大幅に減り続けており、この文章だけで良いか、もう少し精査する必要があるのではないかと。また、パブリックコメント資料のNo.15について、今までの啓発だけでは増えてしまう可能性もあり、既に家庭ごみは増加に転じているという意見に対し、くつ・かばん類のことが記載されているが、くつ・かばん類は焼却ではない。不燃ごみに対する回答かもしれないが、これは回答になっていないと思う。更に、パブリックコメント資料のNo.44のHDM方式について、平成22年の3月に議会において全会一致で決議され、前計画でも生ごみの分別収集が重要な位置付けとして記載してある。最近でも陳情が出ているのに、ただ「ごみ減量に務めていくことが必要であると認識しています。」では、一般論であり、回答になっていないのではないかと。</p>
<p>大江会長</p>	<p>事務局の見解も頂きながら進めたい。まず9ページの図1-4で、自家搬入ごみは大幅に減っている。自家搬入ごみが減量に大きく寄与しているという記述がなく、不十分ではないかということか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>もう少し正確に出した方が良いと思う。可燃ごみが減っている中には、事業系可燃ごみが非常に減っていることが大きく寄与しているはずである。</p>
<p>清水委員</p>	<p>基本計画は総論の話なので、あまり細かいことを書くのはどうかと思う。また、今の時期に細かいことまで立ち入って直してしまうと、時期的に厳しいと思う。</p>
<p>大江会長</p>	<p>今のグラフに関しては、確かに総論的なところである。大きく間違っている記述があれば直さなければならないが、それがなければ、このままの表記で整理したいと思う。パブリックコメントのNo.15の意見に対して、回答がずれているのではないかと。という指摘だったと思うが、事務局はどうかか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>頂いた意見の書き出しでは、燃やすごみは減っていないとあるが、後段では、減量を進めるために剪定枝のような画期的なことを提案して欲しいという部分が重要だと判断した。それに対する回答になっている。</p>
<p>大江会長</p>	<p>意見としては、一番後段の「剪定枝のような画期的なことを提案して欲しい」とあるが、これを受けてのものということか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>そのとおりである。そのため、可燃ごみだけではなく、ごみ量全体を減らしていくには、さらなる検討展開に努める、と記載している。</p>
<p>大江会長</p>	<p>趣旨を受け止めての対応ということだ。もう1つのNo.44番についてだが、HDM方式とは何か。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>簡単に言うと、生ごみを好気性微生物によって減容化するシステムである。堆肥化というよりも減容化ということなので、小金井市の状況に適合しているとい</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>うことで陳情が出た。当時市議会が全会一致で決めた時も、大きな減量ができ、消費者の負担を軽減できるという観点があった。</p>
大江会長	<p>HDM方式は、日野市や国分寺市では、やっているのだろうか。</p>
加藤委員	<p>日野市や国分寺市ではやっていない。少なくとも、なぜできなかったかということについての記述がないと良くないのではないか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>陳情が採択されて実証実験を行おうとしてきたが、市内で大規模なHDM方式を実施するための場所を確保できず、陳情された方々と繰り返し意見交換をさせて頂いてきた。例えば、電動式生ごみ処理機でHDM方式を導入している生ごみ処理機があるのだが、それをまず設置して実証実験をしないかということも打合せをしてきた。結果として、予算化されなかったことを議会で報告させて頂いたが、引き続き市民の方々と意見交換を続けていた。それに代わるということではないが、大型生ごみ処理機の購入費補助制度を策定した。その中でHDM方式の大型生ごみ処理機を排除するというにはなっておらず、HDM方式も含めた補助制度という形になっている。今回パブリックコメントに寄せられた意見に対し、経緯から最終的な状況まで全て記載するかどうか、非常に悩んだ。今までの経過や状況等を全て説明しても、一般市民の方々は、おそらくHDM方式は何か、というところから始まるので、パブリックコメントの検討結果としては記載しづらく、HDM方式に限らず減量を進めていくことは非常に重要であるということを強く表現させて頂いた。HDM方式に関わっている方々との意見交換は、今現在は行っていないが、必要があれば、パブリックコメントの回答についても、きちんと説明させて頂くこともあると考えている。</p>
岡山委員	<p>計画にHDM方式について記載されているわけではないし、生ごみの分別収集を含めた上で調査研究を引き続き行うということが新たに記載されたことで理解できると思う。基本計画なので、HDM方式の経緯等を細かく記載する方が混乱する。敢えて言えば、コラムのように説明を加えるぐらいは良いかもしれない</p>
加藤委員	<p>No.47の生ごみ堆肥化事業の推進で、「生ごみ分別収集について記述がないのはどのような審議会での議論の結果か」、とあるのに対し、「生ごみ分別収集の実施は難しいという見解を頂いている」、ということだが、これはどこから頂いたことになるのか。審議会から実施は難しいという見解は出ていない。前回の議事録でも、こういう表現には全くなっていないのではないか。</p>
大江会長	<p>現時点では、生ごみ分別収集の実施は難しいという審議の経過はあるが、委員の中には、大事だという方もおられるので、もう少し表現については考えて頂いても良いと思う。</p>
岡山委員	<p>近日中にホームページにアップして公表される予定だということであるならば、No.47の表現については、多少注意が必要だと思う。</p>
大江会長	<p>パブリックコメントに対する検討結果は行政の意見だが、その中に含まれている</p>

審議過程（主な発言等）

<p>加藤委員</p>	<p>審議会という言葉は、多様な意見があるところもあるので、No.47についての見解は、今日の意見も含めて、事務局の方で少しご検討頂きたいと思う。</p> <p>前計画の資料編は、9、10ページで、全体像や経過がごみの種類別に分かるが、新しい基本計画案では出ていない。本日の参考資料では、平成36年度までのごみ・資源物排出量が出ている。1日1人あたりだけでやると、全体像が分かりにくいので、目標年度は何にする等を出すべきだと思う。この参考値等は資料として出すのか。</p>
<p>大江会長</p>	<p>資料編は、どれぐらいのボリュームになりそうか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>資料編は、前計画と同じぐらいのボリュームにはなる。アンケート結果、組成分析、パブリックコメント、ワークショップや、本日の参考資料にある今後の推移についても資料編に載る。</p>
<p>大江会長</p>	<p>前回と大きく違うということはないという回答かと思う。他にいかがか。</p>
<p>鶴田委員</p>	<p>4ページのNo.18からNo.20は、大変厳しい意見であるが、回答が「認識しています」と非常に軽い。もう少し踏み込んだ回答をすべきではないか。基本計画の29ページ等に、廃棄物会計への取組や情報発信をうたっているの、費用の情報公開等、今後の対策を提示するべきではないか。</p>
<p>岡山委員</p>	<p>コストや費用については、No.45、No.46も同じで、関心の高さを感じた。非常に大雑把にまとめると、一生懸命ごみを減らしているのに、処理等に掛かる費用が高いのはなぜかという疑問だと思われる。我々は一生懸命減らせば減らすほどコストが掛かるのは分かっているが、おそらくその辺りをご理解頂いていないと思う。No.18からNo.20のところは余白があるので、率直にこういうところでお金が結構掛かっていると説明しても良いのではないか。現在やっている生ごみ堆肥化に関しても、機材のイニシャルコスト、ランニングコストの高さ等々、もし分別収集をしていくのであれば、それに対する収集コストというものも結構な金額が掛かってくるだろう。そういうところを、説明された方が良いのではないか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>パブリックコメントの回答で、ごみ処理費用が高いのは、資源化を図るには費用が掛かっているとある。ただ、店頭回収等も含めてやれば、必ずしも資源化に力を入れているから費用が上がるとはならないと思う。やはり取組がそういう方向を向いていないということがあったのではないか。資源化をしても、費用が上がっていない市もある。それは、発生抑制や集団回収も含めて取組をしている。小金井市の集団回収量は多摩26市の中で低い方である。市がやっているから高くなる、だけでは言葉不足だと思う。</p>
<p>大江会長</p>	<p>ごみ非常事態宣言の元、コストを考慮する以上に資源化して燃やすごみを減らさなければということで対応してきたが、今度はコストを減らさなければという曲がり角に来ていると思われる。環境省のデータで見ると、資源化率は10万人以上50万人未満の市町村で多摩地域トップである。今まではそうせざるを得なかったという</p>

審議過程（主な発言等）

<p>清水委員</p>	<p>バックグラウンドがあり、行政は多面的にやろうとしている。資源化は行政だけがやるのではないということも踏まえて、もっと店頭回収が進めばコストも下がっていくだろうし、そういう部分の啓発や情報提供も含めて施策を行うことが重要になってくる。ごみ非常事態宣言の元に、というようなバックグラウンドを説明する言い方もあっても良いかと思う。</p> <p>コストの件は、前から審議会でも出ていた。市から、詳しいデータが出てこない。コストに対する問題意識は、小金井市民は持っている。寄せられた意見に対して、それなりの検討結果を出すというのは大切だと思う。検討結果を、この短い中に書き込めなければ、添付資料等で、ある程度分かるようなものが出せないか。</p>
<p>大江会長</p>	<p>コストについては、基本計画案の13、14ページに、多摩地域平均に対する2通りの記述がされている。また、小金井市が全国一の資源化率ということについて、それだけをすごいと受け止める。トータルな視点につながらない情報だと、数字だけが独り歩きして、良いところと、背景にある問題点が、一緒になってこない。背景の説明は、繰り返しやらなければならない。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>資源化率が48%、ごみの減量が日本一と出たことに対して、他市のごみ活動をしている方からどうということか、説明して欲しいという電話があった。回答する必要があると思う。</p>
<p>大江会長</p>	<p>資料については、短い時間で難しいと思うが、事務局も何が出せるかももう少し考えて頂きたい。</p>
<p>岡山委員</p>	<p>多摩地域平均のtあたり年間経費が64,202円、小金井市は111,425円という結果になっている。ごみと資源物、両方合わせたの原単位である。焼却だけの単価、ごみ処理の原価、埋立の原価、トータルの原価、資源物ごとの原価等を出すと、量的に可燃ごみの焼却費が多く占めているのではないか。</p>
<p>大江会長</p>	<p>そのため、小金井市が抱えてきたバックグラウンドを説明することも必要ではないか。</p>
<p>岡山委員</p>	<p>これまでは、コストを考慮する以上に資源化して処理していくしかなかったのだが、もう少し細かく見ると、他市に比べてこの辺りが高いということが分かるのではないか。1つずつ、1つの事業として見ていった時には、乾燥生ごみ堆肥化事業は全体に占める割合は少なくとも、tあたりで見るとおそらく高いはずである。そういうことも含めて、もう少し自己弁護しても良いのではないかという気がする。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>二枚橋で処理しているときに比べて、広域支援以降で高くなったということはある。同じ境遇にあった調布市の平成22年度、平成23年度の清掃事業の概要を見ると、小金井市のごみ処理経費の方がトータルの高い。やはり、生ごみ処理機補助が80%で5万円という限度額は、日本でも2市しかないぐらいすごい支援をしている。加えて、焼却処理施設がないこと等もあり、高くなっているのだろう。これから検証することになるだろう。</p>

審議過程（主な発言等）

清水委員	<p>いわゆる焼却場の廃棄処分のための費用が上乘せになってごみ処理に入っている。それを除くとどうなるかというグラフがあるが、他市は、工事費や設備費の辺りがほとんど計上されていない。多摩地域平均というのは、そういう設備に掛かる費用を入れておらず、極端に少なくなっているのではないかと気になっている。設備の補修改修等のお金がどこかの工事費や建設費等、別の枠組みに入っていないか。ごみ処理のところに本当に入っているのか、比較検証も必要だろう。</p>
大江会長	<p>おそらく調布市の焼却費もほとんど同じぐらいだと思われる。ただ、資源化は三鷹市と一緒にやっているし、条件が小金井市とは全然違うので、小金井市は色々な面で大変だったということがある。</p>
北澤委員	<p>基本計画案13ページの修正したところに「限りある資源を有効活用するために資源化处理に多額の経費が使われていることから、ごみになるものを元から減らす発生抑制に最優先に取り組まなければなりません」と、ここだけやらなければならぬことが出てくる。水準よりも高いというところで切っても良いのではないかと。課題として、処理経費をどうしたいのかというところが出てこないが、廃棄物会計の中で、その辺りに少し触れても良いのではないかと。</p>
岡山委員	<p>これはまさにNo.18からNo.20のところの説明すべきことである。委託料が高いが、資源化にもお金を掛けているので両方を減らしていかなければいけないことから、つきましてはご協力ください、というようなことを一言書いておいてはどうか。また、基本計画案の75ページにごみ処理コストの検証があるが、これも施策としてやると書かれているので、むしろ、このところに加えても良いのではないかと。1つ1つ、物ごと、プロセスごとの原単位を、細かく分析すると個々に課題があり、トータルで考えれば、ごみも資源物も両方減らさなければいけないことが分かる。そこに関しては、今後も引き続き分析調査研究を行っていく、というように書かれたら良いと思う。</p>
加藤委員	<p>文章でなかなか書ききれないのであれば、資料で出しても良い。</p>
岡山委員	<p>原単位だけでもコストの細かいものが、もし出るようであれば、あると良いと思う。本編に追加する文章よりパブリックコメントの回答の方が大事だと思う。</p>
大江会長	<p>今までの意見を参考に、事務局のほうで検討して頂きたい。他にいかがか。</p>
加藤委員	<p>基本計画案の25ページに、生ごみ堆肥化事業の実績や夏休みの生ごみ投入の具体的な数字が出てきているが、土曜日生ごみの実績も入れて欲しい。</p>
渡辺副会長	<p>土曜日生ごみ投入は、この表1-10には入っているのだろうか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>入っている。生ごみ堆肥化事業の中には、学校、保育園、各家庭の他に、夏休み投入、土曜日生ごみ投入等全て含まれている。土曜日生ごみ投入は、地域におけるボランティアの方々の自主的な事業に対して市が支援を行っているという位置づけであり、基本計画案18ページで、土曜日生ごみ投入事業について触れさせて頂いている。また、今後の施策の展開として、基本計画案56ページで、市民の</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>自主的な取組である土曜日生ごみ投入リサイクル事業の支援について触れさせて頂いているということで、お答えさせて頂きたいと思う。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>夏休み生ごみ投入については、表を見ると分かるように平成21年度からは、ほとんど増えていない。土曜日生ごみ投入については、これから増える可能性がある。市民の参加によっては倍ぐらいになる可能性も高いので、このごみ減量、資源のリサイクルという点でも注目して良いと思う。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>夏休み生ごみ投入事業だけでなく、市民の自主的な取組である土曜日生ごみ投入リサイクル事業についても、引き続き支援していく。</p>
<p>渡辺副会長</p>	<p>No.16、No.58にもあるが、基本計画案の48ページの事業系ごみが2,000t新たに出てくる可能性があるという記述に関して、読まれた市民の方々も、唐突だと思われるのだろう。「民間の一般廃棄物処理施設で処理を行っています」でつながっているが、「行っています」で一旦切り、「事業系ごみ減量のための施策は継続していきますが、今後の可燃ごみの云々」という表現にした方が良いのではないかと。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>これだけが具体的な数字で、疑問を持つ方が多いだろう。カットした方が良いのではないかと。新しいごみ手数料が決まったわけでもなくどこで決まるかも分からないのに、2,000t増えるというのは合理的でない。</p>
<p>渡辺副会長</p>	<p>施設整備の計画との問題なのだろうが、少なくとも、減らす努力はするのだということでは言っているのではないかと。そうでないと、これは増えることを容認しているような感じになってしまう。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>基本計画案の48ページで、ごみ手数料の改定を行った場合は、とあるが、これはより分かりにくい。改定を行った場合というのは、どの程度の改定なのか。改定をするのかしないのか分からない。「今後」から削除した方が良いと思う。</p>
<p>大江会長</p>	<p>これは、いろいろと議論があって記載したものである。この文章は、事務局の方が必要という形で出てきたのだが、いかがか。</p>
<p>藤田ごみ処理施設担当課長</p>	<p>新しい施設の設計をしているので、どうしてもごみ量の根拠が必要である。小金井市のごみを、何t新しい施設に持っていくのか、何を根拠にしているかという、ごみ処理基本計画の数字を根拠にしている。今使っているのは中間目標年度の現状推移で387gを使っているが、事業系が入っていないので、これに事業系を載せた数字を、設計数値として使っている。1万5,000t持って行く予定があるという計画でやっているの、ここに2,000tと載らないと根拠がなくなる。確かに唐突かもしれないが、この事業系ごみは広域支援の対象にならないということで、今は民間処理して頂いているというのが実態である。今の収集運搬業許可業者は、安定した新しい施設があれば、そちらに持っていきたいという思いも当然あるので、そこは我々としては考慮しなければいけないということもある。可能性があるという数字ということで、どこかに載せておかなければ根拠がなくなり困ることになる。</p>



審議過程（主な発言等）

大江会長	事業系ごみは減量に貢献してきたが、こういうバックグラウンドがあったということである。今後、それがもう一度出てくるわけで、施設建設にあたっての計画根拠として、数字が必要になっている。事業系ごみへの減量指導や継続的な減量取組というところを出しながら、場合によっては、新たな施設に搬入されることもあることも視野に入れておくべきということを示した方が良いのではないかと、ということである。
加藤委員	2,000tとなると、平成25年度が376tなので、結局平成18年度や平成19年度に戻ってしまう。これは容認できない。
大江会長	この数字は半減できないのか。
藤田ごみ処理施設担当課長	おおむねこの2,000tが、民間処理施設に運ばれている実績の数字である。今後も引き続き減量施策に取り組んでいくことは当然であるが、新しい商業施設もオープンしており、ごみ減量は非常に難しいという思いもあり、その辺りも踏まえて、実績の数字を出している。
多田岳人委員	手数料が統一される時期というのは決まっているのか。
藤田ごみ処理施設担当課長	手数料は今後3市で調整しなければならないという確認は取れているが、いつまでいくらという確認は取れていない。新施設が稼動するまでには調整するというのが現状である。最終的に、ごみ処理施設の施設規模を決めるタイミングが重要である。ごみ減量の努力は当然しなければならないが、いざ工場を開いてごみを全て焼却できないといけないので、今ある可能性を全て出し、一定程度の枠をもらわなければならない。
大江会長	枠が余ってしまった場合も、払う経費は同じか。
藤田ごみ処理施設担当課長	建設費については3分の1ずつである。ランニングコストはまだ全部が細かく決まっているわけではないが、ごみ量割りなので、ごみが出なかったとしても、何かペナルティがあるわけではない。
多田岳人委員	ごみ量割りなら、やはり減らした方がよい。担当者には頑張ってもらいたい。
大江会長	枠は持つておかなければいけないが、その上で、事業系ごみの減量努力は継続しなければならない。手法は次の段階だろうが、色々なベンチマークがあるだろう。
北澤委員	よく分かったが、2,000tという数字を出すのだったら、ここはぼやかしておいて、例えば3市で異なっているごみ処理手数料の改定があった場合には、事業系可燃ごみが施設に搬入される可能性があるぐらいにして、2,000tは排出量の推移の中で、事業系ごみは減少しているけれども、外に持って行っているのが約2,000tあるという数字だけ、ここに置いておくのはどうか。
藤田ごみ処理施設担当課長	表現については、調整させてほしい。

審議過程（主な発言等）

加藤委員	この計画は、小金井市民だけでなく日野市民も見見るわけである。さらに2,000tが出るというのは、日野市民を非常に刺激することになる。それなりの配慮は必要だと思う。
大江会長	実態から目を背けるわけにはいかないということも踏まえ、事務局で、表現について検討をお願いしたい。
加藤委員	パブリックコメントの検討結果で、「貴重な意見として参考にさせていただきます」というのは、施策に反映させるという意味は入っているのか。それとも、意見は聞いておくということか。
大江会長	行政は聞き置くという姿勢ではないと思っている。ただ、今ここではストレートに出せない部分があるから、基本計画案に反映する部分があれば、長期的には考えていくべきだという部分もある。まさに表記しているとおりで私は受け止めている。
小野ごみ対策課長	パブリックコメントとして頂いている意見なので、現時点においては、まだ検討ができる段階ではないが、決してそのままにしておくつもりはない。何らかの形でこれからの施策の中で、対応できるものについては対応していき、そうでないものについても意見を踏まえた施策の展開を図っていくように努めたい。
渡辺副会長	10ページのNo.55のところだが、10%減という削減目標について、根拠があまり説明されておらず不可解であるという意見が出ている。確かに、多摩地域で一番少なくしたい、と書いてあり、それが根拠なのかということだが、近年の減量実績から考えて、10年間で10%減辺りが妥当な目標であるということで設定した、というようなことが、目標設定の考え方の中に1、2行入ると、良いのではないかと。
岡山委員	今のところも含めて、No.54からNo.56の目標値の考え方は、算出根拠としては、人口に対して1人あたりの考え方で、45ページに示されている。中間目標年度、目標年度の算出根拠については、資料編に記載されると理解している。パブリックコメントに対する回答については、処理計画に記載すると書くだけではなく、余白があるので、資料編の方をご参照ください等と書けばどうか。コストも同じで、反映はしていないが資料編の方を参照、と書いてはどうか。それから、清掃事業概要を参照して下さい、という記述もあったと思うが、若干気になったのは、廃棄物会計や費用のことも計画内にいくつか記載はあるが、先程のtあたりの金額に対して、清掃事業概要ではコストが安い。品目ごとの原単位を見るといくらか分かりやすいが、高いと言っているわりに、ここだけ見ると高くないと思ってしまう。回答は、清掃事業概要や資料を参照すると共に、数字をきちんと合わせて欲しい。これでは質問された方が納得してくれるかどうか、非常に不安である。
大江会長	最初の目標のところは、資料編の方に記載はされるのか。小金井市は情報をオープンにしていないわけではないが、色々なところに情報があり、統合できないものが沢山ある。清掃事業概要の中にも細かいところがあるので、そういうところを活用して、パブリックコメントにももう少し親切に答えたらどうかということだと思う。

審議過程（主な発言等）

小野ごみ対策課長	本日、机上に配布させて頂いている「目標年度におけるごみ種別目標値の内訳」、「ごみ・資源物排出量の推移」、「将来人口及びごみ排出量の推計資料」は、全て資料編に掲載する予定である。また、この資料を参考にすれば書いてある、という部分については検討したい。
大江会長	パブリックコメントの対応については貴重な意見を頂いたので、事務局で検討して頂くということで、大筋この審議会です承したという形で良いだろうか。
委員各位	(異議なし)
大江会長	では、処理計画の審議に入る。本日資料として、これまでの審議会での審議内容を踏まえた平成27年度一般廃棄物処理計画を提出して頂いた。これについては、前回で処理計画の大筋はご了承頂いたので、前回の審議会での修正点について、事務局の方で説明をお願いしたい。
小野ごみ対策課長	(平成27年度一般廃棄物処理計画資料説明)
大江会長	平成27年度の処理計画については以上だが、何か意見等あるだろうか。
加藤委員	ほぼ分かったが、パブリックコメントの中で、基本計画は大綱的な位置づけであり、具体的な施策については毎年の処理計画に記載する、とある。どういうところに反映するのか。
大江会長	パブリックコメントにもあったが、一般廃棄物処理計画と基本計画の2つあるということ、あまり理解されていない意見もある。2つの計画の位置づけを示し、基本計画ではこう扱い、処理計画ではこうだということ、どちらかの計画の中に書いておく必要もあるかと思う。
小野ごみ対策課長	それは基本計画案の2ページに記載している。基本計画と実施計画のところに米印を付けており、それぞれコメントしている。これは、あくまでも現時点なので、最終的な答申を頂く時には、きちんとした形でお示ししたい。会長が言われるとおり、基本計画と処理計画の位置づけが、多くの市民の方々にご理解頂けていないと考えたので、修正させて頂いた。
大江会長	基本計画案2ページのリード文のなお以下に書いてあるが、基本計画を推進するための年度毎の具体的な取組については、毎年度策定する実施計画で定めるとされており、それに合わせて図0-1も文言を入れて、2つの計画の位置づけを示している。2つの計画でそれぞれ示すと決めた内容については、基本的なところは反映されているかと思う。毎年実施計画は策定していることから、全てが平成27年度の実施計画に記載されているわけではないが、2つの計画は、この形で進めさせて頂きたいと思う。次回について、事務局からご説明頂きたい。
小野ごみ対策課長	次回の話の前に、今日お示しさせて頂いた資料について、若干説明したい。次第の裏面に、生ごみ堆肥化事業概要がある。これは、ごみ対策課として生ごみ堆

審議過程（主な発言等）

	<p>肥化事業について平成27年度はこうしていきたいという内容のものを、お示しさせて頂いたものである。議会の方に提出されている予算の説明資料の写しである。現在、中町にある実験施設の機器は耐用年数を超えて使用しており、安定稼働の確保が困難である。また受入量が許容量ぎりぎりであり、更なる事業の拡大を図ることができないということを理由に、中町の実験施設をやめ、市外民間施設を活用し堆肥化するという事業を議会の方に提案している。最終的に議会の予算審議を経て議決がされれば、平成27年度以降の早い段階で、当事業を実施していきたい。審議会の方へ報告する機会が今日しかなかったので、参考資料としてお示しさせて頂いた。現時点では、予算の審議前なので、今日は報告ということでご了承頂ければと思う。</p>
大江会長	<p>これは、いつ議会ではっきりするのだろうか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>平成27年2月23日から議会が始まり、平成27年3月23日が最終的な本会議ということでスケジュールが組まれているので、平成27年3月23日の本会議で予算が認められれば確定ということになる。</p>
大江会長	<p>そうすると、処理計画の方にも反映されるということか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>平成27年度の処理計画の方に反映する暇があるかどうかということがあるので、平成28年度の処理計画の中で変更を加えていく形になるかと思う。</p>
加藤委員	<p>この民間の堆肥製造施設というのはどこか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>ここに書いてあるとおり、完熟堆肥を作れるところ、乾燥生ごみを受け入れてくれるところになると思う。</p>
加藤委員	<p>市民説明会等でも、生ごみを受け入れる業者がないから分別収集できないということがあったが、それが見つかったということで良いか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>生ごみではなく、乾燥生ごみを完熟堆肥にしてくれるところを見つけたということである。</p>
降旗委員	<p>本日の資料で、2,000tを受け入れるのが平成31年ということで、前倒してその前に手数料を決めれば良いのだが、人口の微増プラス減量ということを進めていくので、かなり難しい面があると思う。市民の方は減量をしなければいけないということは分かっているが、実行できてはじめて分かったということにするためには、やはり広報活動なり、そういったものを工夫していく必要があると思う。</p>
大江会長	<p>広報活動を含めて、事務局で対応をお願いしたい。事務局の方で、その他に何かあるか。</p>
秋元ごみ対策課長補佐	<p>次回の日程だが、基本計画については、細かい文言調整等を事務局の方で行った後、会長と副会長との調整で了として頂けるのであれば、次回は答申という</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>形での日程を組みたい。実際には平成27年3月19日木曜日、午後6時から第2庁舎8階801会議室で日程は押さえている。先程申し上げたとおり、基本計画の結審ということで、この審議会の中で一旦了という形を取って頂ければと思う。</p>
大江会長	それで良いか。
委員各位	(異議なし)
大江会長	<p>今回は、平成27年3月19日午後6時から、答申ということになる。それにより、平成26年度の審議会を終わりにするということになる。以上で、本日の審議会を終了する。</p> <p>(閉会)</p>